

秋水通信

第38号

2024.12.5

幸徳秋水を顕彰する会
〒787-8501
四万十市中村大橋通4丁目10
四万十市生涯学習課内

ホームページ
<http://www.shuu sui.com/>
090-6827-9129 (田中全)
メール:zen-tanaka@heart.ocn.ne.jp
郵便振替 01610-7-9071

無実の碑 除幕 坂本清馬没五十年記念

一月二四日

秋水・清馬合同墓前祭

碑文

宣言

坂本は必ず勝つ

裁判所が原判決を破棄して

無罪の判決を下し

永い間無実の罪で

誠心誠意陳謝百拜するまでは

言語に絶する損害をかけて

申証がなかつたと

天皇も裁判官も

必ず萬寿無窮永遠無窮に

斗いつづける

一九七〇年一月二四日

大逆事件唯一人の生存者
幸徳秋水門人 坂本清馬



無実の碑は秋水非戦の碑の左隣に建立する

交流会	開始	午後六時
会場	会場	ホワイトキャッスル（愛宕町）
会費	会費	五千円
講師	講師	山泉進「坂本清馬の人間像」
記念講演会	開始	午後二時半
会場	会場	中村商工会館三階大会議室
（小姓町）	（小姓町）	金子武嗣「幸徳秋水の再審請求の十年間の軌跡」

幸徳秋水刑死一四年。
坂本清馬没五十年記念
合同墓前祭、「無実の碑」除幕式

日時 二〇二五年一月二四日（金）

場所 正福寺境内（山手通り）

大逆事件の最後の生き残りとして一九年六一年再審裁判請求の訴えをおこした坂本清馬は二〇二五年一月十五日、没五十年を迎えます。（行年八九才）。秋水顕彰会ではこれを記念し、「無実の碑」を建立します。費用は二〇二一年「非戦の碑」建立カンパの剩余金を充てます。毎年一月二四日の幸徳秋水墓前祭を二〇二五年は坂本清馬との合同墓前祭とし、「無実の碑」除幕式もおこないます。

記録映画を製作します

「いごつそう革命児 坂本清馬」（仮題）

田中 全

十月、静岡市の袴田巖さんの再審裁判で、五八年を経て無罪が確定した。「袴田事件」は警察と検察がでつちあげたものであつたことが明らかにされた。日本の裁判制度において再審裁判は

「ラクダが針の穴を通るよりもむづかしい」と言われているが、同じ十月には三八年前の「福井中学生殺害事件」で逮捕

されていた前川彰司さんに対して、名古屋高裁金沢支部は再審を認める判決を下した。厚い司法の壁に風穴が空くことに期待したい。

しかし、二つの事件は実際にあつたことは事実であり、逃げ延びた真犯人がいるということを忘れてはならない。

これに対し、大逆事件なるものは、当時の国家権力が事件そのものをつくりあげたものであった。「犯人」など存在しない架空の「事件」によつて二四人が死

刑判決を受けた。犯人とされたのは、二四人が抱いていた思想である。

そんな前代未聞の事件に対して、今から六三年前の一九六一年、再審裁判請求

を代表して立ち上がったのが坂本清馬であつた。その時点では、事件の生存者は清馬一人。清馬は二四人（プラス有期刑一人）

を代表して立ち上がった。一人、岡山の

森近運平だけは、妹の森近栄子が共同原告に加わってくれた。（森近栄子も来年没五十年）

清馬の生きざまについて、生前の清馬を知る尾崎清さんが本号四ページで語っている。私はなぜ、清馬は立ち上がつたのか、立ち上がることができたのか、その人間像に迫るために清馬没五

十年を機に映画をつくりたいと思う。

清馬は無期懲役になつた一二人の中で最も長い二五年間、獄にいた。無実を叫び続け、罪を認めなかつた。仮釈放になつて中村に住み着いてからは、町の有名人

清馬は革命運動」と言つた。そんな工

人、変人のごとく見ていた。独尊、狷介、鬼氣。自らを秋水の「門人」と呼び、「秋

水顕彰は革命運動」と言つた。そんな工

ネルギーはどこから生まれたのか。

清馬には士佐人に共通する天性の豪放

磊落さがあつた。それは正義感や潔癖

さ、心の純粹さ、に通じるものである。

そんな清馬は嘘で固められた判決を許す

ことができなかつた。清馬は人一倍やさ

しい、ピュアな心をもつていた。

映画のプロデューサーは宮本直実さ

五年、監督は大塚正之さん。完成は二〇二

五年末を目指している。



坂本清馬



清馬の墓 正福寺

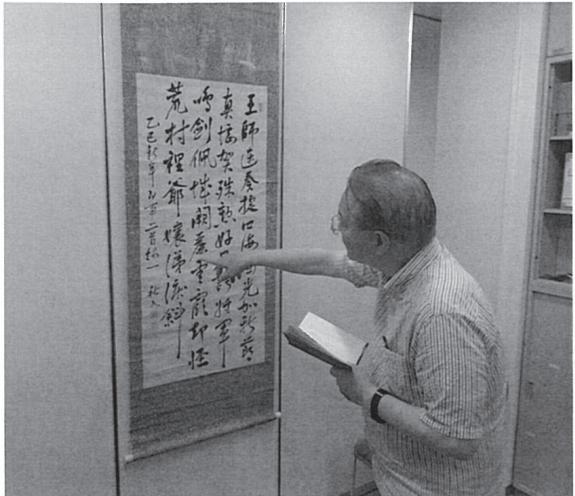
秋水の書軸見つかる

王師連奏捷・・・非戦論を展開

幸徳秋水の未公開の書軸が見つかり、このほど所有者から四万市立郷土博物館に寄贈された。中村に帰省中の山泉進氏が五月三十日鑑定。本物に間違いない。

秋水が日露戦争中の明治三八年一月、平民新聞に書いた五言律詩で、戦勝で軍人がいぱりのさばる中、庶民は泣いていると訴えている。

非戦論「嗚呼増税」と類似の内容。秋水全集八巻にも収録。



書を鑑定する山泉進氏

王師連奏捷 四海威加
新節眞堪捷 殊勲好足誇
將軍鳴劍佩 城闕麗雲霞
却怪荒村裡 爺娘涕淚斜

(訳文) 皇軍は連戦連勝と奏聞され、今や日本は世界の強国となつた。新年までに樂しい限りである。軍人ともなれば、殊勲を樹てたというので論功行賞で威張り散らすに不足はない。將軍が帶剣

薬種業の俵屋とは薬の取引があつた。超英氏(祖父)の田村定五郎(秋水と同じ明治四年生まれ)は地元の下ノ加江で医師をしていたので、中村の秋水の実家、記も残している。その中に、幸徳薬店の定五郎は、各々明治三六年十月、三七年二月、四十年二月から始まる三冊の日記も残している。幸徳武次郎(秋水の義兄駒太郎の娘婿)が仕事でやつてきたことや、仕入れ薬の明細が記載されている。毎年二月、中村で幡多郡医師会の会議が開かれ、終わったら俵屋が喜楽亭で接待してくれることが恒例になつていたといふことも。

俵屋は薬種業と酒造業を営んでおり、中村では大店(おおだな)であつたとされているが、その商売の詳細はわかつていらない。そんな中、医師を束ねて接待をするとは、商売は盛況であったことをうかがわせる貴重な記録である。

山泉氏によれば、秋水はアメリカから帰国後、明治三九年七~八月、中村に帰省中、お得意先の定五郎先生にあげたいという駒太郎に頼まれて、この書を認めたのであろうといふ。

幸徳酒店の徳利、酒樽

をガチャつかせて闊歩するのも当然だろう。千代田城に棚曳く霞も麗かである。ところが奇怪千万、田舎の村々を廻つても見よ、老人や娘達が、たゞさめざめと泣いている。

(中島及「幸徳秋水漢詩評釈」
一九七八年、要約)

書軸を寄贈したのは土佐清水市の坂本超英氏(祖父)の田村定五郎(秋水と同じ明治四年生まれ)は地元の下ノ加江で医師をしていたので、中村の秋水の実家、記も残している。その中に、幸徳薬店の定五郎は、各々明治三六年十月、三七年二月、四十年二月から始まる三冊の日記も残している。幸徳武次郎(秋水の義兄駒太郎の娘婿)が仕事でやつてきたことや、仕入れ薬の明細が記載されている。毎年二月、中村で幡多郡医師会の会議が開かれ、終わったら俵屋が喜楽亭で接待してくれることが恒例になつていたといふことも。

俵屋は薬種業と酒造業を営んでおり、中村では大店(おおだな)であつたとされているが、その商売の詳細はわかつていらない。そんな中、医師を束ねて接待をするとは、商売は盛況であったことをうかがわせる貴重な記録である。

山泉氏によれば、秋水はアメリカから帰国後、明治三九年七~八月、中村に帰省中、お得意先の定五郎先生にあげたいという駒太郎に頼まれて、この書を認めたのであろうといふ。

幸徳酒店の徳利、酒樽

幸徳酒店の徳利と酒樽も昨年見つかった。

幸徳酒店(酒造)は戦時統合により幡東酒造(銘柄「四季の友」)になつたあと昭和三五年まで続いた。

書軸を寄贈したのは土佐清水市の坂本超英氏(祖父)の田村定五郎(秋水と同じ明治四年生まれ)は地元の下ノ加江で医師をしていたので、中村の秋水の実家、記も残している。その中に、幸徳薬店の定五郎は、各々明治三六年十月、三七年二月、四十年二月から始まる三冊の日記も残している。幸徳武次郎(秋水の義兄駒太郎の娘婿)が仕事でやつてきたことや、仕入れ薬の明細が記載されている。毎年二月、中村で幡多郡医師会の会議が開かれ、終わったら俵屋が喜楽亭で接待してくれることが恒例になつていたといふことも。

俵屋は薬種業と酒造業を営んでおり、中村では大店(おおだな)であつたとされているが、その商売の詳細はわかつていらない。そんな中、医師を束ねて接待をするとは、商売は盛況であったことをうかがわせる貴重な記録である。

山泉氏によれば、秋水はアメリカから帰国後、明治三九年七~八月、中村に帰省中、お得意先の定五郎先生にあげたいという駒太郎に頼まれて、この書を認めたのであろうといふ。

幸徳酒店の徳利、酒樽

幸徳酒店の徳利と酒樽も昨年見つかった。

幸徳酒店(酒造)は戦時統合により幡東酒造(銘柄「四季の友」)になつたあと昭和三五年まで続いた。

新刊紹介 栗原康著
幸徳秋水伝 無政府主義者宣言

幸徳秋水の評伝類はこれまで神崎清、絲屋寿雄、田中惣五郎、塙田庄兵衛、飛鳥井雅道、坂本武人など多数あるが、久しぶりの書下ろし。



右の裏は「濱松」



特に、数年前にアムステルダムとモスクワで発見された、秋水がクロポトキンにあてた手紙により、二人の交流が從来考えられていたよりも濃密であつたことが紹介され、秋水がアナキストに深化していく過程がリアルに描かれている。

夜光社刊

2800円+税

特に、数年前にアムステルダムとモスクワで発見された、秋水がクロポトキンにあてた手紙により、二人の交流が從来考えられていたよりも濃密であつたことが紹介され、秋水がアナキストに深化していく過程がリアルに描かれている。

大逆事件 熊本四人の墓

田 中 全

坂本清馬の映画製作に向けて、六月三、四日、大塚正之監督と熊本県ヘシナリオハンティングに出かけた。熊本では熊本評論の四人が事件に連座した。松尾卯一太（死刑）、新美卯一郎（死刑）、飛松与次郎（無期）、佐々木道元（無期）である。

清馬は一九〇八年五月、東京から熊本評論の応援にでかけ二ヶ月滞在。翌年も秋水と決別後流浪の途中、八月から九月にかけて松尾宅に寄宿。そこで決死の士を集める謀議に加わったとして、東京に戻つてから逮捕された。熊本は今度の映画では欠かせない因縁の地である。

大塚監督と福岡空港で合流。車で最初に向かつたのが県境を熊本側に越えたところ、飛松与次郎のふるさと山鹿市。飛松は一八八九年（明治二十二年）生まれ、小学校卒で代用教員をやりながら、熊本評論を中心に読んでいた。彈圧後の後継紙、平民評論の編集を頼まれ、勇んで熊本市へ出たとたんに逮捕され、清馬と同じ秋田監獄に送られた。一四年後假釋放（無期懲役）の中、六四歳で没。



飛松与次郎 永代供養
(高田家)



松尾卯一太の墓



新美卯一郎の墓



佐々木道元の墓

に日蓮宗本澄寺で永代供養されていた。本澄寺の駐車場の一角には、熊本県内の支援者たちによつて二〇一四年、大逆事件犠牲者顕彰碑が建てられていた。山鹿から三人で玉名市に向かう。菊池川に沿つて走り四十分ほどで田んぼの中、川島地区に着いた。松尾卯一太のふるさとである。地元の松尾研究者、松井浩章さんと待ち合わせ。

松尾は一八七九年（明治一二年、卯年）生まれ。家は小地主であった。長男で済々黙だまれ。松尾は中退で東京専門学校（早稲田）に進んだ。東京でも早稲田は卒業せず三、四年いた間に社会主義にめざめたよう。新美卯一郎も同じころ済々黙だから早稲田に進んでいるので、行き来があつたようだ。

松尾は二十四、五歳の時、川島へ帰り、洋式の大規模な養鶏業をはじめる。九州家禽雑誌も発行した。平民新聞の熱心な読者であつた。寄付も送つていて。そんな松尾を新美が訪ねてきて、新しい新聞、熊本評論を出そと誘い、松尾は応じた。その頃、平民新聞はすでに廃刊、本近代史研究会代表で今年四月亡くなつた廣島正さんの夫人。参つた。案内役は廣島美智子さん。元熊本近代理事会代表で今年四月亡くなつた新美はいまの熊本市内で松尾と同じ明治一二年生まれ（卯年）で学歴も同じ。新美記者経験があるので、松尾を誘い熊本評論を立ち上げた。

新美の墓は市営立田山墓地の南側斜面にあつた。新美家墓はもと市内の別の場所にあつたが、洪水で被害を受けたため戦後にここに移した。そのさい一族の靈は一つにまとめたが、妻の希望で卯一郎の小さな墓石だけはそのまま移した。立だつかつぱら地元の社会問題等を扱つていて。しかし、段々と先鋭化。東京で発表機会を失つた秋水、堺利彦ら大物の投稿が多くなり、直接行動派の全国紙のようない位置づけなつてしまつた。その罠に坂本清馬も



大逆事件犠牲者顕彰碑
(山鹿市本澄寺)

はわかつていよいよ墓全体の様子から墓守はいるよう。しかし、詳細な記述はされていない。佐々木道元は市内壺川の即生寺（淨土真宗西本願寺派）二男であつた。飛松と同様、明治二二年生まれ。済々黙では在学生から熊本評論を読んでいた。しかし、五年で中退、「追われた」との記録がある。道元は飛松同様、死刑判決から無期懲役に減刑になり、千葉監獄に送られた。しかし、大正五年、病氣（肺結核）で獄死した。大逆事件犠牲者の中では道元だけが顔写真が残つていない。遺品もいつさも出したが一回でストップ。ほどなく四人で大逆事件に巻き込まれてしまう。集落の中の墓地の入り口には「松尾卯一太の墓」の立て札が立つていて。しかしながら、松尾の墓は草むらの中に放置されている。松井さんによれば、いま墓守はない。卯一太に子はいたが、子孫らの消息は不明という。

翌日は熊本市に入り新美卯一郎の墓に参つた。案内役は廣島美智子さん。元熊本近代理事会代表で今年四月亡くなつた新美はいまの熊本市内で松尾と同じ明治一二年生まれ（卯年）で学歴も同じ。新美記者経験があるので、松尾を誘い熊本評論を立ち上げた。

新美の墓は市営立田山墓地の南側斜面にあつた。新美家墓はもと市内の別の場所にあつたが、洪水で被害を受けたため戦後にここに移した。そのさい一族の靈は一つにまとめたが、妻の希望で卯一郎の小さな墓石だけはそのまま移した。立だつかつぱら地元の社会問題等を扱つていて。しかし、段々と先鋭化。東京で発表機会を失つた秋水、堺利彦ら大物の投稿が多くなり、直接行動派の全国紙のようない位置づけなつてしまつた。その罠に坂本清馬も

からめとられた。今度の映画の熊本ロケでは、そうした國家権力によるドス黒い陰謀の実相に迫りたいと思っている。

坂本清馬翁の生涯

顕彰会副会長 尾崎清

清馬翁と私

森岡くるみさん、お父さんは顕彰会初代会長の森岡邦弘さんですが、くるみさんは子供のころ家に来ていた清馬さんがわかつたと言っています。それで明治大学名誉教授、大逆事件の眞実をあきらかにする会事務局長の山泉進さんではないでしょうか。山泉さんは大学時代から清馬さんのところに出入りしており、そのころのことを清馬の自伝の解説に書いています。清馬の人柄がよく伝わつてくる秀れた人物論です。

私は昭和二年生まれで、清馬さんより六十歳下になります。私の父が清馬さんとつきあいがあり、親しくしていまして、清馬さんは後川（四万十川支流）の堤防を歩いて散歩しながら、よく父を訪ねて、いま物産館サンリバーのところにあつた当時のわが家へ来ていました。私は二十歳になる前で、高校を出てからプログラマとしていました。父がいないうちは、よく相手をさせられたというか、話の聞き役をさせられました。その時の話を印象に残るエピソードのようなものを紹介します。

一つは、人間のもつ能力はそれぞれ違うということ。十の人もいれば五の人もいる。しかし、十の人で六の能力しか發揮しなかつた人と、五の能力を全部発揮した人では五の人のほうが立派な生き方



総会記念講演
しまんとぴあ
ミーティングルーム
2024.5.18

清馬の生涯

清馬さんは明治十八（一八八五年）年、母の実家、室戸町元の掘つ立て小屋で生まれた。二十歳上の兄と姉二人（一人は若死）。坂本は母の姓、父は中村出身の染め物職人岡村幸三郎で気性の激しい人で浮き沈みの激しい生活だつた。母は高知の土佐勤王党の幹部島村家の女中をしていました。

三つは、菅野須賀子のこと。清馬さんは須賀子に淡い恋心をもつていたことはいろいろ書かれているし、自伝にも書いていることだが、私の前でも須賀子の話になると、八十歳を超えた老人の顔がほのかに赤くなつた。私は若かつたが、清馬さんの心の中には須賀子への想いが深く残つてゐるのだなと思いました。

銘しました。二つは、革命家は長生きをしなくてはいけないという話。北海道の社会党代議士で横路節男という人がいた。この人は論客で、テレビの政治討論会でもきわだつていた。のちに北海道知事をやつた横路孝弘さんのお父さんです。ところが、そのころぼつくり亡くなつた。私が清馬さんに残念でしたねと言つたら、章外な答えが返つてきた。革命家は若死にをしてはいけない。自分の命を惜しみ、養生して長生きをしなければならない。そして人民のために働くかなければならぬと。どうやら、これが横路の教訓らしい。

清馬さんは十四歳で高知の海南中学に入学したが（軍人山下奉文は同級）、由退。高知二中にも入つたが（林譲治同級）、またも退学。この頃、蘇東坡の東洋的無政府思想に惹かれていた。このことは、それほど注目はされていないが、人の資質としてあつたのではないか。河上肇の「社会主義評論」の感化も受けた。二歳で上京。小石川砲兵工廠の警夫になる。秋水の「社会主義神髄」を読んで手紙を書き、書生になる。秋水帰省中、



清馬と尾崎栄

最後の出獄（仮出獄）となる。獄中二五年。特高警察が心配をして大本教を紹介、関係団体高知支部に就職。しかし大本教は同年壊滅的弾圧を受ける。昭和十六年、住友通信工業の嘱託とななり、幡多を足場に松脂採取事業に手腕を發揮する。この頃、定宿としていた中村の花屋旅館の女中、保岡みちゑを養女に迎えた。小柄でおだやか、おとなしい人だった。三十歳以上の年の差があつた。昭和二十年（六十歳）、敗戦は中村（秋水、自分の父のふるさと）で迎えた。そのまま定住。

昭和二十五年、中村町議会議員補欠選舉で当選（任期二年足らず）、公民館問題や幡多結核療養所開設（のちの西南病院）に尽力。結核問題では高知市池療養院の坂本昭医師を訪ねて協力を得る。坂本医師はのち参議院議員（高知市長も）

最後に、私は清馬さんは「歴史的的人物」であつたと思います。

一つは、幕末の安政の大獄に続くような政府の一大陰謀事件に対し、獄中で二五年間たたかい、さらに戦後再審請求裁判をおこしたことで、事件を風化させなかつた。清馬さんが頑張つたからこそ大逆事件の解明はいまも続いているのです。

二つは、絶対的天皇制の下でも、冤罪であつた事件に対し、逮捕時から死ぬまで、終始一貫、無罪を主張し続けた。その存在は日本刑法史上特筆されるべきだと思っています。大変な異骨相でしたのが、それだからこそ生涯無罪を叫び続けたのでしよう。

五月十八日 幸徳秋水を顕彰する会
総会記念講演要旨
四万十市総合文化センターしまんと
びあミーティングルーム

堺利彦の紹介で熊本評論の応援に行くた
そのころは平民新聞、大阪平民新聞はち
くなり、熊本評論だけが残つています。
赤旗事件で東京に戻つてからは秋水詫
「麵麌の略取」の秘密出版に尽力したが
管野須賀子のことと秋水と口論になり
飛び出す。宮崎、熊本、東北などを流浪
明治四三年七月、東京で拘束され、そ
のまま大逆罪で逮捕される。翌年一月十
八日死刑判決、十九日深夜無期懲役に減
刑、二一日秋田監獄へ送られる。高木顯
た。極寒の冬は健康体操などして生き延
びた。

になり、大逆事件の真実をあきらかにする会の初代事務局長をつとめた。昭和二九年、日中友好協会中村支部を結成する。昭和三六年（七八歳）、森近運平の娘栄子と東京高裁に、大逆事件再審請求裁判をおこす。同四十年、請求棄却、直ちに最高裁へ特別抗告。同四二年、これも棄却される。昭和四五年、秋水の妻、師岡千代子の墓を秋水墓地に建立。京都同志社関係者の資金支援を受けた。昭和五十年（一九七五年）一月十五日、氣道閉塞のため自らが設立に尽力した昌立西南病院で死去。八九歳であつた。



素顔の清馬
右は能勢克男弁護士・京都

闘いぬけたのでしょうか。